

きのくにコミュニティスクール推進協議会 協議概要

1. 日 時 令和3年6月9日（水）14：00～15：30
2. 会 場 和歌山県立図書館 メディア・アート・ホール
3. テー マ きのくにコミュニティスクールの発展・充実期をより豊かなものにするために
4. 協議の視点 （1）効果的な学校運営協議会の運用に向けて
（2）きのくにコミュニティスクールにおける読書活動の推進に向けて

5. 委員による主な意見

（1）効果的な学校運営協議会の運用に向けて

○コミュニティ・スクールと共育コミュニティの関係性について

共育コミュニティでは学校が地域側から必要な支援を受ける形で進めてきたが、コミュニティ・スクールでは学校の課題だけでなく、様々な地域課題も学校運営協議会の中で考えていく必要があるのではないかな。



○学校運営協議会委員の人選について

機能的に学校運営協議会を運営していくためには、学校と一緒にあって、子供たちの課題・学校の課題・地域の課題を考え、行動してくれる方に学校運営協議会委員になっていただく必要があるのではないかな。

○学校運営の基本方針の「承認」について

学校運営協議会において、学校運営の基本方針の承認は最も大事である。学校運営の基本方針に沿って教育活動を進めるために、学校教育計画を立てる旧年度末から学校運営協議会委員も参画しながら一緒に考えて、新年度当初の第1回学校運営協議会で、熟議を通し、承認することが大切ではないかな。

○教職員の理解促進について

・地域との連携・協働による取組などを可視化することで、教職員が意識するようになるのではないかな。

・学校運営協議会の中に複数の部会を作り、それぞれの課題に対して学校運営協議会委員と教職員が共に考えることで、互いに当事者意識を持つことができると思う。

○機能的な学校運営協議会について

学校運営協議会を部会制にしている学校では、課題を設定しやすいというメリットがある。学校運営協議会委員自身も動きながら進めていくことが有効だと思う。

○地域と学校をつなぐ人（コーディネーター的役割の人）について

学校と地域をつなぐ役割を果たす方が学校運営協議会委員になっていただくことが必要である。熟議を経て、活動を行う時、学校と地域のつなぎ役として先頭に立ってもらおうと効果的だと思う。

○情報収集、情報発信について

地域の情報を得るにはSNSを使ってアンケートを実施する手法も考えられる。SNSは地域への情報発信と共に、地域からの情報を得る方法としても有効的に使えるのではないかな。

○県立学校としての「地域」の捉え方について

県立学校は広域から生徒が通うため、「地域」の捉え方が難しい。学校のある場所を「地域」として捉え、連携・協働して取り組む仕組みが必要なのではないかな。学校運営協議会は、その地域と学校をつなぐ窓口になるのではないかな。

○取組の実態調査について

コミュニティ・スクールの実態調査を県で実施したらどうか。その結果を分析することで今後の進め方が見えてくるのではないかな。

(2) きのくにコミュニティスクールにおける読書活動の推進に向けて

○読書の効果について

子供が読書をすることで、読解力や想像力を養うことができる。また、読書の習慣は子供だけでなく大人にとっても大切になるのではないだろうか。

○読書活動推進の実践例について

学校運営協議会の中に読書をテーマとしたプロジェクトチームを作り、教職員も交えた話し合いを行い、それぞれが当事者意識を持って活動することができた。

- ・ビブリオバトルの開催
- ・読書を通じた小中連携（中学生のビブリオバトルの模範実技）
- ・読み聞かせボランティア
- ・学校図書ボランティア
- ・保護者対象の読書講演会 等

○地域で取り組む子供の読書活動推進

読書活動の推進は、地域ぐるみで取り組むことで、子供の健全育成にも大人の豊かな学びにも効果的だと考える。単に読書活動の推進に取り組むだけでなく、読み聞かせ、ブックトーク、ビブリオバトル、本の総選挙など、様々な取組を通じて読書好きの子供が増えることが期待できるとともに、校種間連携、青少年育成、地域の図書館の活性化にもつながっていくのではないかな。



○子供の読書活動を推進する方法

地域には子供の読書活動に関わる読み聞かせのボランティアの方々がおり、学校では学校司書の配置も進んでいる。その方々は様々なノウハウを持たれている。そのノウハウを持った方々の情報共有の場を県で設けて、きのくにコミュニティスクールの仕組みを活かした活動につなげてもらえたらいいのではないかな。

○情報発信

読書活動の効能や具体的な取組事例を県から積極的に情報発信されたい。